

- 校訓
 - 「自主」・・・自ら考え、学び合う生徒・・・ 主体的に
 - ・・・互いを思い、認め合う生徒・・・ 1 (OnlyOne) を大切に
 - 「積極」・・・心身健康で、支え合う生徒・・・ 協働して
 - * 校訓の教えは、本校での学びを通して、自分の未来を創造（想像）する力を育む基軸となる。

- 教育目標 「 **1 (Only One) を大切にし、協働して、主体的に共創する生徒を育てる** 」

スローガン ～「Only One 小野中」ひとつのこと、ひとりのことを大切に**共創**しよう ～

学校の実践指針：合言葉（フレーズ）～「1 (Only One ひとつのこと ひとりのこと) を大切に」～

- 実践指針の場となる5つの合い（愛）＝ひとつのこと、ひとりのことを大切に**する**生徒の姿

「 **学び合い、 磨き合い、 認め合い、 支え合い、 励まし合い** 」(教育実践の中で)

【生徒像】

- 1 自ら考え、学び合う生徒（知）
- 2 互いを思い、認め合う生徒（徳）
- 3 心身健康で、支え合う生徒（体）

【学校像】

- 1 生徒が喜んで登校したい学校
- 2 生徒の安心と安全が守れる学校
- 3 家庭や地域に信頼され、協働する学校

【教師像】

- 1 1 (Only One) を大切にし、協働して、主体的に共創する教師
- 2 生徒を理解し、共に成長する教師
- 3 「ひとつのこと、ひとりのこと」の実践を通して、五つの合いを推進する教師

【重点目標】

- 1 生徒の**ありのまま**を受け入れ、**ひとりの**状況・実態に応じた教育を大切に実践する。(特別支援教育の充実)
- 2 学習環境を整え、豊かな心を育むと共に、**ひとつひとつの学びを通して、自己の未来を創造（想像）できる力の育成**を図る。(学力保障)
- 3 多様性と規範・規律を尊重する教育活動を充実させ、**5つの合い（愛）**を大切に**する心・姿勢**を育てる。
(道徳教育・人権平和・生徒指導の充実)
- 4 家庭や地域と連携・協働し、学びの充実を図るとともに、**地域とともにある「Only One 小野中学校」**を推進する。
(キャリア教育・郷土愛)

【努力目標】

- 1 教科指導の充実（主体的かつ探究的な学びを具現化するために）

- 学習指導要領に則った授業を進め、その充実を図りながら、より**学習の楽しさや互いの成長**を感得させる。
- 学習言語**の習得状況を意識した授業を行い、抽象的思考を支援し、**より見える化**を図りながら、学習のつまづきを防ぐ。(すべての生徒のための特別支援教育の推進・具体的な手立ての試行・実践)
- 多様な言語表現**に触れさせ、活用できる語彙を増やし、**書く活動への対応力や思考力・表現力**を高める指導を推進する。
- ねらいに即した書く活動**を重視し、授業の中で、自己肯定感や有用感、効力感の感得を図る。
聞く力（相手の思いを汲み取る力）・話す力（相手に思いを伝える力）の推進＝**コミュニケーション力**
- 家庭学習との繋がりを大切に、**可能性をひらく主体的な学び**を進めることを通して、学びの習慣化や**学びに向かう力**の育みを推進する。
- 「**主体的・対話的で深い学び**」＝この基盤となる**書く活動**やICT活用の授業を実践的に進めると共に、深い学び（探究的な学び）へ繋げる。
- 探求型の能動的な学習**へ（生徒は、受け身ではなく、主体的・能動的に）
＝教えすぎない授業、「**考えること・自己決定**」を大切に**した**授業の推進を図る。
- 「知識の活用」や「書く活動」を介した**対話的な学習**を推進する。(他者とのやりとり学習へ)
- やり取りに必要な基礎や基本の習得の徹底（教えるべきことは徹底して教える）＝**知識の習得**

2 道徳教育の充実

- 特別の教科道徳の実施に向けた指導、評価についてさらに研究を深める。
- 日常生活の振り返りの中で、人権意識、規範意識を高め、**道徳的実践力**を育てる。
- 道徳授業や人権平和学習等を通して、**多様な心や思い、考え方**に触れ、互いを理解し、尊重する心と態度を育てる。

3 特別活動の充実

- 学年、学級、生徒会活動等において、**思考・判断・自己決定**を意識させ、**主体性や協働する姿勢**を大切に、自治的な活動を充実させる。（「5つの合い」、実践の場）
- 教科指導を含め、図書室の積極的な活用に努め、読書の質と量を高め、読書教育を充実させる。
- 自治的・主体的な活動や授業において、「時」・「場」・「人」をみて行動（判断）する（できる）ことを意識する（させる）。
- 自己理解や生き方に繋がる「**キャリアパスポート**」の充実を推進する。

4 総合的な学習の時間の充実

- 基礎的汎用的能力の育成を図るとともに、将来なりたい姿を見据え、自己のこれからについてビジョンを掲げたり、将来的には地域の職業や人と連携し、その生き方や働き方、課題等を学び、その中で課題解決やその活性化に向けた活動や実践を通して、**キャリア形成の推進**や**地域（ふるさと）を担う実践力を育む**。そのための**学習プラン**を推進する。
*各教科や総合的な学習時間、行事等の中で、実践力の育成を意識した取組を重ねていく。

5 生徒指導の充実（**生徒理解の場を生む・育む。 生徒理解は進行形**）

- 生徒理解を深め、個々の生徒の良さを見つけ、認め、伸ばす。**加点法的**な生徒指導を行う。
- 生徒の状況の迅速で正確な把握・情報共有に努め、協働的で主体的な**成長**につながる指導や共通実践を心がける。
- 生徒指導を組織体制として機能させるために、「**報告・連絡・相談（雑談）**」と「**訪問（声かけ）・連携・早期対応**」を心がけ、学校全体で組織として対応する。

6 特別支援教育の充実（**すべての生徒のために=5つの合い**）

- 特別支援教育の視点で全生徒への支援・配慮事項を意識・共有する。「**ありのまま**」がスタート。
- 特に配慮を要する生徒について、関係機関との連携を図りながら、個に応じたより効果的な指導に努める。（**個別の支援計画・個別の指導計画の充実を図る。**）

7 家庭・地域との連携強化

- 保護者、地域との情報共有や連携・協働に努め、保護者と共にある信頼される職員集団をめざす。
- 地域とともにある学校として、地域や人との繋がりや協働をさらに推進していく
- PTA・地域の行事へ計画的かつ協働的に参加する。＝地域の中にある学校づくり

【 生徒の未来を保障するために 】

我々は、**生徒の未来をつくる**仕事をしている。その成果は、**生徒が後から未来で実感する**ところにある。今日向き合った生徒に、大きな成長が実感できなくても、我々が生徒の明日を信じて、**あきらめない**（強引ではなく、粘り強く、心に寄り添う）**姿勢**で継続的につながり合うことを大切にしましょう。

また、主体的に学びに向かう授業や協働的な実践活動の中で、生徒たちが自分の未来を共に創造していくための基盤づくりを地道に進めていきましょう。

そのために、「**共創するための基盤は主体的に学ぶ姿（学びに向かう力）にあり**」をその具現化の軸として研修（授業改善）を進め、具体的な実践を共有しながら、「小野中だからできる、小野中にしかない文化」を築いていきましょう。

【教育目標具現化への思い】

今年度で小野中学校は、創立80周年を迎える。一つの節目として、小野中学校のこれまでの歩みを基盤に、これからの歩みをすべての生徒と教職員で共創（共に創造）していきたい。そのための教育目標として、「1 (Only One) を大切に、協働して、主体的に共創する生徒を育てる」とした。これから新しい時代の担い手となる生徒たちが、“未来の希望を抱きながら、「ひとつのこと」、「ひとりのこと」を大切に受け止め、皆で協働して主体的に問題や課題に取り組む中で、自他を認め合い、互いの成長を実感しながら、「共創」（共に創造）する未来に向かって一歩一歩着実に歩いていって欲しい”という願いを込めて教育目標を設定した。

そして、その実現のためのスローガンとして～「Only One 小野中」ひとつのこと、ひとりのことを大切に共創しよう～と掲げた。加えて、その実践指針として～「1 (Only One ひとつのこと ひとりのこと) を大切に」～をすべての教育活動の中で反映していきたいと考える。

目指すは、これらを具現化していく教育活動の実践を通して、「自他を認め、互いの存在や取り組むひとつひとつを大切にしながら、自分の未来を創造していくため（あきらめないため）の力」を養っていくこと（伸ばしていくこと）である。

これらを踏まえ、これからの時代がどんなに著しくめざましい変化を推し進めようとも、想像を超えるような問題や課題と向き合うことになろうとも、我々は、本校生徒のために、我々だからできる教育を、我々しかできない教育を進めなければならない。「教育は人である」。「人は人を浴びて人になる」。だからこそ、われわれがその「人」でありたい。

重ねて、これから教育目標具現化に向けて取り組む中で、「我々教職員が OnlyOne の存在として「1（一つ）」となり、協働（共に支え合い）し、主体的に取り組む集団であること」の教育的効果は「無限」であり、その中で、われわれ一人ひとりが思い（授業）を生徒の心に「届け」、心に「響かせ」、生徒の心に「残す」、そして、その「繋がりを大切に継続する」ことで、確実な学びや歩みをひとつひとつ、ひとりひとりに実現していきたい。

これから、我々が生きていく未来社会は、必要な「持続可能な社会づくり」とともに、急激な変革や変動がますます進んでいくことが予想される。そのような中で、今、受け止める子どもたちの現実的な課題として、コミュニケーション（思いを伝える力・汲み取る力）の不足やスマホ・ゲーム等のメディアへの依存、いじめ・不登校の増加等の今日的な課題への対応が問われている時である。また、学校では「これから必要とされる学力（学びの探究）」や「更なる生きる力の育成」、「新しい学校教育の創造（スタンダード構想）」等が求められている中であって、それらを支え導く我々の組織力や対応力が試されるといっても過言ではない。

だからこそ、これからの未来において、生徒たちが一人一人の命、心を大切に、そして一つ一つの学びを創造していくための教えや思いを受け止め、日々の繰り返しの行動一つ一つにも意義や価値があることを深く理解しながら、我々とともに教育活動を誠実に進めていくことで、「小野中だからできる。小野中しかできない」 Only One 教育（小野中教育）の一つ一つの実現・具現化を目指していきたい。生徒と教職員で力を合わせて一歩一歩確実に確かな歩みを進めていきたい。進めていかなければならないと考える。そして、その具現化は、諫早市教委が掲げる「挑戦と創造」そのものと受け止める。

さらに具体的に述べれば、我々がこの歩みを通して、これから未来を生き抜く生徒のために、「必要な（伸ばしていかなければならない）力」をまとめると

- ① 問題や課題と向き合い、それに粘り強く挑み続ける力（学び合い、支え合い、磨き合い、基礎学力）、
- ② 協働（力を合わせて）して取り組む力（認め合い・コミュニケーション力・伝える力・汲み取る力）、
- ③ 主体的に創造する力（学び合い・考える力・学びに向かう力・探求力）、

これらの3つになると思われる。

これらの3つの力を結集した「我々が目標とする生徒の姿」を一言で表現すると、『（「ひとりのこと」、「ひとつのこと」の）未来を共に創造（共創）していく生徒」を育てること（未来を諦めず、創造していくための力を育むこと）』と受け止める。つまり、「自分の未来を諦めない生徒を育てる」ということであり、学校生活全般を通して自分の未来を「創造していく力」「諦めない力」を育てていきたいということである。

その力の基盤は、「自己理解」であり、自己効力・自己容認である。そして、その諦めない力の軸は、「基礎学力」であり、他者と協働する中で感得する「スモールステップから生まれる小さな達成感」や「失敗から生まれる尊い共感」であり、そこで感じ取る自己肯定感や自己有用感である。

そして、生徒の中に眠っているその力の種は、「共創」する中で、課題や問題に自ら（主体的に）向かい、「自己決定」しながら、それと粘り強く向き合っていく経験の中から芽吹き成長していく。すなわち、これらすべてが生きる力の礎になっていく。

そして、その具現を図る場は、やはり、「授業」であり、我々が共にする「教育活動」である。

したがって、我々は、自らの授業改善に挑み、この方向性や意図の反映を目指していきましょう。我々は、その一つ一つを負担感や重圧と受け取るのではなく、我々の共通認識のもと互いを支え合い、認め合って、生徒とともに楽しく、おもしろく充実した教育実践を一步一步前に進めていきましょう。

我々の努力と実践の成果が生徒の姿・学校の姿としてみんなが実感・共感できる学校運営を目指していきましょう。

以上のことを踏まえ、令和8年度を、我々教職員で「ワンチーム」として力を合わせて、生徒のために協働して一步一步前に進んでいきましょう。「**人は、人を浴びて人となる**」⇒「**環境が人をつくる**」⇒「**学校では、生徒にとって一番の環境はわれわれ一人ひとりの教職員である**」のだから。